

# 89歳 笑顔のマジック

## 博多笑い塾 天進齋乱万さん

福岡市のNPO法人「博多笑い塾」所属のアマチュアマジシャン、天進齋乱万(本名・小野進)さん(89)が来月6日、卒寿を迎える。子供の頃から難聴で、「人との交流に役立てば」と40歳の頃に始め、レパートリーは100種類以上になった。今も年間50回ほど舞台上に立ち、軽妙なトークを交えて熟練の技を披露。100歳の現役マジシャンを目指し、新しい技の研究を続けている。

(西村康英)

「今年、十九の春、いや九十の春を迎えます」「今日は寒いけれど苦渋(九十)の選択でここに来ました」

今年21日、福岡県太宰府市の公民館で開かれた住民交流会「くすの会」。地域のお年寄りら約50人を前に人気ゲーム「スーパーマリオ オブラザーズ」のキャラクターのような衣装で登場した天進齋さんは、ダジャレ

を交えた口上で笑いを取る

と、約1時間、マジックを披露した。

新聞紙に注いだ水を一瞬で消したり、観客が選んだトランプの札を言い当てたり……。盛んに拍手を送っていたくすの会副代表の溝口誠治さん(71)は「私たちがより年上なのにすごい。みんな元気をもらいました」と驚いていた。

手品との出会いは、福岡市西区で時計・宝飾店を経営していた40歳の頃。福岡市・中洲でスナックのマ

マからハンカチを使ったマジックを教わり、「これはおもしろい」とのめり込むようになった。難聴のため

当時、知り合いたちとカラオケに行ってもうまく歌えず、人前で披露できる特技があればと思っていた。

最初は専門書やビデオを購入して覚えていたが、60歳代後半になって西日本奇術クラブ(福岡市)に入会。メンバー同士で技を披露し合いながら腕を磨いた。飾らず自然のままの様子を意味する「天真爛漫」をもじ

って芸名をつけ、78歳の時に同クラブの紹介で笑い塾に入った。

笑い塾所属の芸人ではもちろん最年長。左耳はほとんど聞こえず、右耳は補聴器が必要だ。2年ほど前には胆のう摘出手術を受けた。

それでも自宅や車庫は手品道具やマジック関連の本などであふれ、日々、練習や新しい技の研究に没頭している。月2回のマジック教室も開いており、「風邪を引く暇もない。マジックでお客さんに喜んでもらうことが私のエネルギー。気持ちはまだ60歳代です」と語る。

笑い塾では2月6日に天進齋さんの卒寿を祝う会を開催する予定だ。NPOの小野義行理事長(57)は「好きなことを毎日続け、笑って過ごせば健康でいられることを天進齋さんは証明してくれている。100歳まで健康を保ち、現役を続けてほしい」と期待する。

出前公演には交通費などが必要。問い合わせは同塾(092・714・1880)へ。

## 難聴乗り越え腕磨く 「100歳現役目指す」



博多笑い塾 笑いによる健康づくりなどを目的に1999年、理事長を務めるイベント制作会社社長、小野義行さんが設立した。約40人のアマチュア芸人が所属し、出前公演でマジックや大道芸、音楽演奏、腹話術などを披露したり、笑いをテーマにしたイベントを開催したりしている。出前公演は昨年12月、通算2500回を突破した。

トランプを使ったマジックを披露する天進齋乱万さん(福岡県太宰府市)。山岸真史撮影